

第1章 はじめに

1. はじめに

平成 14 年度より始まった「e！プロジェクト」における介護福祉分野の実証実験を「e-ケアタウンプロジェクト」と名づけ、2年にわたり展開してきた。藤沢市における本実験は、少子・高齢社会における人びとのクオリティ・オブ・ライフ（QOL、生活の質）を、介護・看護医療面における専門知識と最新の IT という技術が、どこまで向上させることが可能であるかを追求し、実証する試みであったといえる。

平成 14 年度は主にインフラを中心とした基盤整備が実施された。在宅介護要支援者をはじめとする市民モニターのご自宅、藤沢市保健医療センターなどの市内施設に光ネットワークを敷設し、研究拠点である e-ケア・スタジオと、それらを結ぶ広帯域ネットワークを構築、これらを用いて、IPv6(Internet Protocol version 6)次世代プロトコルを活用し、介護福祉分野の実証実験を開始した。

以上の経過を踏まえ、平成 15 年度は以下のような業績を上げることができ、本報告を行うものである。それぞれの詳細については、各項を参照されたい。

1) 実施体制における、連携の強化

藤沢市・(財)藤沢市保健医療財団・慶應義塾大学・NTT 東日本の 4 者から成る「e-ケアタウンふじさわ実証コンソーシアム」を平成 14 年度より継続して運営し、産官学連携の本プロジェクトを推進した。平成 15 年度は、昨年度よりも長期にわたる実験を通じて、実証コンソーシアムの連携体制はより堅固なものとなった。

2) 実証実験における新たな成果

- (1) e!ヘルスアップ・e!ファミリーケア・e!介護プログラム実験では、市民モニターの方々に昨年度から継続して実証実験に参加頂き、開発機器の改良など、ユーザビリティ向上という見地からも高い評価を得た。
- (2) e!スキルアッププログラム実験では、ケアに関する e-ラーニングの教材、実地指導等における一層の充実を図った。「外出支援」及び「住居改善」の 2 シリーズのビデオをホームページ上で公開し、市内介護事業所および公民館の協力を得て、多くの参加者からのご意見を頂くことができ、介護福祉分野における e-ラーニングの普及に向け更に一歩前進した。
- (3) e!ケア情報セキュリティプログラム実験では、ケア情報に関するセキュリティ管理ソフトを開発し、新たな市民モニター、ケアスタッフの方々と、在宅ケアにおける情報共有上のセキュリティについて今後の指針となり得る成果を上げた。

平成 15 年 6 月 14 日に慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス(SFC)で開催されたワークショップや同 11 月 20 日・21 日六本木ヒルズで開催された SFC Open Research Forum 2003 (SFC の研究成果を広く世に公開することを目的に年 1 回開催しているフォーラム)で、本実証実験の経過とこれまでに得られた成果を発表し、多くの好評を得た。またその際、藤沢市および関連事業所、多くの市民モニターの方々が積極的にご来場くださったことは、きわめて大きな喜びであった。

こうした取組みを更に発展させるべく、平成 15 年 7 月 1 日、SFC 研究所において「ヘルスケア・インフォマティクス・リサーチ・ラボラトリー」を設立。ここでの研究活動において、さらに新しいソフト・ハード両面の開発と地域住民および自治体との寄り密な連携により、人びとの QOL 向上を啓蒙し貢献する役割を果たしたいと考えている。

本報告書のはじめに、この事業に多方面にわたって多大なご協力を頂いた関係諸機関に深甚なる謝意を表するものである。